



皆さま方に深く感謝するとともに厚くお礼を申し上げます。

和二十六年の全国公民館連絡協議会の結成にあたり準備委員として参加した県公運協初代会長の北村政義氏（浦里村公民館長・現青木村）が全公連初代会長に就任しました。

県公運協の目的は、県下公民館の連絡提携をはかり、公民館活動の振興に努め、もって社会教育の進展に寄与することであり、公運協ができた翌年の昭和二十六年に全国初の主事会が、昭和四十一年

県公連協結成から七十年、今年は公民館にとってかつてないほど逆風が吹き込みました。新型コロナウイルス感染症の拡大は公民館活動の根幹ともいうべき「集う」ことを拒み、公民館職員は事業実施への苦悩を抱えました。県公連協はこうした中で、新たな公民館活動の方法を模索するため県公民館大会にZoOmによるオンライン

全国及び関東甲信越静 研究大会報告

〔県公運協事務局の移転について〕

現在、県公運協事務局が入居している長野県庁東庁舎（昭和二十九年建築）が来年度早々に取り壊されることから、事務局は令和三年二月二十二日（月）に長野市若里の県立長野図書館に引越しすることとなりました。

ン開催を取り入れ、三百二十二人の参加を得ることができました。県公連協は自らの目的達成のため工夫と創造を凝らし、今後も微力ではありますが県知事表彰の栄誉に応えるべく事業を継続したいと考えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

県知事表彰「教育功労団体」受賞

長野県 公運協だより

第 145 号
発 行 所
長野県公民館運営協議会
長野市大字南長野字幅下
692-2
県庁東庁舎内
電話 (026)232-0111
(内線 4849)



る形式で開催されました。併せて、大会報告書に十四分科会の報告事例及び実践報告、助言者のコメントを掲載して年度内に発行することとなっています。

第十二分科会は「世代をつなぐ公民館」として、千曲市屋代公民館の安藤秀一館長による「よみがえった盆唄・盆踊り（雨宮縣音頭）」の報告と長野県生涯学習推進センターの筒井美保子公民館支援専門員の助言が掲載されます。安藤館長の報告では、雨宮縣音頭の曲と踊りが六十五年の時を超えて復活し、地域の歴史と地域住民の絆を結ぶ役割を果たしてきたいきさつが生き生きと綴られています。

長野県公民館 館長総会並びに研修会

伊那市伊那公民館
館長 細江 孝明

当初五月十一日に開催予定であった「県公民館館長総会並びに研修会」は、一年前より上公連館長部会で準備を進めてきました。しかし、今年度はコロナウイルスの影響で総会は紙面で、研修会は延期せざるを得ない状況となり、規模

を縮小し短時間での開催を計画しました。幸いその頃の上伊那地域では感染拡大がなかったため、十月十六日（金）伊那公民館を会場に県下各地より約七十名の関係者にお集まりいただき開催することができました。

半日の開催で、館内放送による全体会の後、六つに分けた分散会で十人～十一人の小集団でのグループ討議を行いました。内容は、新学習指導要領で、『地域に開かれた教育課程』が大きく取り上げられることを踏まえ、「公民館として子どもたちが地域とどのように連携しながら学びを深めていくのか」、CSの現状と、子どもを取り込んだ公民館活動のあり方について熱心に討議していました。



「まめったく生きる」

松本市中山公民館
館長 鈴木 幹夫

「地域づくり支え手入門講座」の三回目の会場は長野市中条、昔の木造学校の雰囲気そのままの山の中の音楽堂。

黒岩秀美さんからは、高齢化が加速する中で、煙突掃除や草刈り、除雪などが出来ないようになって生活に支障が出てきたけれど、ここでずっと暮らしたいという思いに沿う方法はないのかと探る中で、

中心に、積極的に学校と関わる状況が紹介されました。また、子どもを取り込んだ公民館活動については、各公民館で工夫しながら実施されているものの、受け皿が少なかつたり、中学生の参加がなかつたりと、子どもたちを社会教育の土壤にどのように入れていくのかが課題となりました。いずれにしても、子どもをどう育てていくかは地域の大きな課題であり、学校任せにするのではなく、今後公民館をはじめ地域が大きく関わることの重要性が討議された分散会でした。

ここに暮らす高齢者の方々との交流も持たれた。

「明日は何をやろうかと思いつがら寝る」「お茶呑みながらのおしゃべりが生きがいだなあ」「町で暮らしているがたまに帰つて実家の布団を干したり草を刈つたりしている」中には「私はイノシシと話ができる」という人もいた！ 少子化、高齢化、一極集中の勢いは止まらないが、地域のために走りまわる人と「ここで生きてきた、これからもここで生きる」人々はどこかの過疎の村にもいる。

日本の谷間に無数に点在する村はこれからどうなるのか、PC一つで仕事ができる世もある、その辺に地域再生のチャンスはないか、そんなことを思いながら山道をゆっくりと帰ってきたのだつた。

**リレー
コラム**

「長野県らしい
公民館とは?」
⑫

地域の伝統的な祭の盛り
上げに児童達も一役:

長和町公民館
館長 龍野 賢一



長和町の古町
地区には、一月
十四日夕方～十
五日昼頃にかけて、人口六千人足
らずの町で、二日間で四万～五万
人ほどの人が訪れるという江戸時
代より続く「おたや祭」という伝
統的な祭があります。五か所に
「山車」が飾られ、多くの露店商
が並び平日でも地元の小中学校は
計画休校にもなります。

しかし、最近では出店する露店
商の数も減り、以前と違って十五
日が年によっては休日にならない
事もあり、町
中も明かりが
減り寂しく
なってきたよ
うに思えます。
また、人出も
少なくなりつ
つあり地域の



十四日夕方～十
五日昼頃にかけて、人口六千人足
らずの町で、二日間で四万～五万
人ほどの人が訪れるという江戸時
代より続く「おたや祭」という伝
統的な祭があります。五か所に
「山車」が飾られ、多くの露店商
が並び平日でも地元の小中学校は
計画休校にもなります。



そこで、毎年公民館で募集し、
年間六～七回程、地域探検や物づ
くりなどの活動をしている小学生
対象の「ふるさと探検隊」に参加
している児童達に呼びかけて一昨
年は手作りペットボトルキャンドル
と灯籠の絵、昨年は竹灯籠を手
作りし、更に灯籠の絵も街頭に並
べて夜飾り明るく照らしてみたり
しました。



二月初めに、
竹の事に詳
しい町のベ
テランの方
二人に依頼
して切り出
し、更に適
切ったり、
大切な長さに
事もあれば、
中も明かりが
減り寂しく
なってきたよ
うに思えます。
また、人出も
少なくなりつ
つあり地域の



方々が工
夫し協力
し一生懸
命に作ら
れた山車
の見学者
も少なく
なってき
ています。

斜めに切っていたり準備しまし
た。そして、「ふるさと探検隊」
当日、児童や協力してくれる保護
者の方と一緒に、飾りの文字や絵
を描き、ロウソクを立てる穴を開
けたりしました。

祭当日は、夕方に参加してくれ
た児童たちと点火式を行い、一緒
に同じ目的で地域の方々と飾った
イルミネーションもあり、賑やか
になりました。山車を見にきたお
客様達も児童達の手作りの竹灯籠
やペットボトルキャンドルをのぞ
き込んだり、写真を撮られたりし
ていただきました。山車を毎年作られ
ている方々からも「今年は、賑や
かになつたなあ!」とお礼を言わ
れたり、近くに
出店していた達
磨売りの露店商
さんからも、
「お陰でお客が
増えたわい!」
と感謝されたり
もしました。

(*今年は新型コロナウイルスの
感染拡大防止の観点から、「ふる
さと探検隊」の募集は出来ません
でした。また今のところ「おたや
祭」 자체も縮小される様子です。)



コロナ禍
トな語り方
でご講演を
いただきま
した。

ブロッキーース

北信

人権教育研修会

長野市立三輪公民館
係長 中込晃子

鮮やかな紅葉の彩りも落ち着き
冬の気配が少しずつ感じられる十
一月二十五日、長野市立公民館連
絡協議会の人権教育研修会を浅川
公民館で開催いたしました。二十
八館の館長や主事が集まるため、
密にならないよう感染防止策が取
られ、換気も徹底していただき、
会場内の空気も爽やかな感じを受
けました。

当日、研修会の講師としてお招
きしたのは、善立寺住職の長原真
了さんです。長原さんは、FMせ
んこうじでお馴染みの『僕のパパ
は住職さん』のパーソナリティで
す。「仏教から見つめる、いのちと
の輝き」～はかりなき、いのちと
題してソフトな語り方でご講演を
いただきました。



で生命がはかられている：出生前診断を受ける人が特に増えているそうです。診断結果で障害があると、約八割の人が出産を選択しないそうです。本来生まれるべき命が絶たれてしまうのはとても切なく感じました。

人権教育のねらいは、差別や人権侵害をしない、させない実践力を養うことです。そのためには、差別や人権侵害に関わる知識・理解・自分自身を知ること、他人の気持ちを考えることができます。私たちの無知、無関心、無理解により、決めつけた考え方や思い込みで差別や人権侵害にながらない意識が大切だと感じました。

映画と語りの会

松本市和田公民館

主任 中田真実

松本市和田公民館では、例年夏休みの時期に「映画と語りの会」という事業を行っています。公民

ここに生きる

で生命がはかられている：出生前診断を受ける人が特に増えているそうです。診断結果で障害があると、約八割の人が出産を選択しないそうです。本来生まれるべき命が絶たれてしまうのはとても切なく感じました。

人権教育のねらいは、差別や人権侵害をしない、させない実践力を養うことです。そのためには、差別や人権侵害に関わる知識・理



みに未就園児から小学生までのお子さんにご参加いただいています。

深見の池親子釣り大会

阿南町公民館
主事 最賀哲司



当日、公民館のスクリーンを真剣に見つめる姿や笑い声がとても印象的でした。今回参加してくれた子どもたちが大きくなり、このコロナ禍をあんなこともあつたねと言えるようになる頃、そういうえばあの時公民館に行つたなと、思ってもらいたいです。

今年度は新型コロナウイルス感染症の関係で、実施するべきかどうか委員会で検討されました。検討する中で、「せっかくなので何かしたい」、「いつもより夏休みも短い、子どもたちに何か思い出になれば」という委員の皆さんのが声もあり、今年度も実施することとなりました。

例年は、絵本の読み聞かせや人形劇をお願いしていましたが、大きな声を発します。この状況では難しいだろうと、今年度は映画を上映することとしました。上映作品を選ぶにあたっては、保護者の方や、児童センターの職員の方にご協力いただきました。

阿南町の中心部に「深見の池」と呼ばれる周囲七百mの大きい池があります。普段は町内外から釣り人が訪れたり、池の周りは地域の方が散歩するなど、憩いの場として親しまれています。しかし、近年は水質の悪化が進み、さらに、釣り人が放流したブラックバスやブルーギルなどの外来種が多くを占めるようになり、池の環境が以前より悪化しています。

そこで、楽しみながら外来種を駆除し、池の環境について知つていただこうと、20年ほど前から釣り大会を開催しています。ちなみに、参加者が釣った魚はブルーギルがほとんどですが、油で揚げれば骨ごと食べることができます。なので、参加者は「ブルーギルが食べられるなんて知らなかつた」と語る方がほとんどです。

地域に眠っている資源はまだまだたくさんあります。今後は今まで活用していなかった資源を活用して住民の方に地域のことをもっとよく知つていただけるような活動を行っていきたいです。

親子で参加していただくことが前提ですが、大人の方のみでも参

加可能で
す。

参加者

の皆さん

には制限
時間内で
一番たく

さんの魚
を釣つた

方を「多
いで賞」、一番大きな魚を釣つた方を「大きいで賞」として表彰を行っています。さらに、釣りが終わってから表彰式まで少し時間ががあるので、その時間をを利用して、地元の方から深見の池の環境についてお話をいただき、より深い学びの場を提供しています。

ちなみに、参加者が釣った魚はブルーギルがほとんどですが、油

で揚げれば骨ごと食べ

ることが出来

るので、参加者は「ブルーギル

が食べれるなんて知らなかつた

た」と語る方がほとんどです。

地域に眠っている資源はまだま

だたくさんあります。今後は今ま

で活用していなかつた資源を活用

して住民の方に地域のことをもつ

とよく知つていただけるような活

動を行っていきたいです。